

■日程：2024年5月1日（水）～5月4日（土）

■ボランティア参加者数：14名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
5月2日（木）	穴水町諸橋地区 仮設住宅団地	16名
5月2日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	17名
5月3日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	30名
5月3日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会施設	34名

■被災者の声（主なもの）

- ・4月によやく水と電気が通ったので帰ってきた
- ・このサロンは6月まで決まっているが、せめて9月まではこのまま継続してほしい
- ・市からの補助金の申請がめんどくさい
- ・誰か誘って来たいけど、みんな仮設住宅、地域の外に出ていなくなってしまったのでさみしい
- ・瓦礫の撤去が終わっていない。家族が連休中に来てくれることになっているが、手つかず。ボランティアに応援を求めるのは申し訳ないので依頼しない
- ・「被災したのはあんただけじゃないよ」とご近所さんから言われることもあり、支援を受けることに抵抗がある
- ・漁師さん78歳、ここでずっと生きてきたのにこんなことになるとは…。元は海岸がなかったのに隆起してこんな状態になっちゃって漁もできない（今の海を”綺麗”とは思えない）
- ・児童館など子どもが遊べる場所がなくなったので、それに困っている。
- ・1月1日に旅館で被災したが、しばらくは対応で忙しくてこれず、今は社長が遠方に住んでいることを考慮して、休みをもらい、来れている。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・ご近所通しのつながりがある程度残っていることは実感（少し安心）した。一方、孤立しがちな人、ご近所さんや友人・家族がいなくて孤立している人にどう輪に入っていくかが悩ましい。
- ・来週を楽しみに待っている人が多かった。生きがい、楽しみを持つことは大切だと実感
- ・このサロンが地域の情報交換や安否確認につながる。外からの支援の大切さ
- ・震災当時受験生だった現在大学1年生の3人組の話が印象的だった。被災した当時受験勉強をしていて赤ペンを持って逃げた、カフェで勉強していた被災など。受験生というストレスのたまる時期に被災し、食事も数日通らなかったなど。そんな経験をしたなかでも、しなやかに生きる彼女たちの姿に心を打たれた。大学進学先がバラバラだが、今回サロンに来てくれて、彼女たちの集まる場所にもなったのではないかな。

